

行動データ科学コース

身体メディア研究室 阪田真己子 MK612

視覚表現研究室 下嶋 篤 MK707

認知行動科学研究室 杉尾武志 MK506

比較文化研究室 田口哲也 MK615

計量社会科学研究室 鄭 躍軍 MK613

身体メディア研究室(阪田研究室)

研究室概要

人と人が対面するダイレクトなコミュニケーション場面にあつては、メディアとしての身体が担う役割は非常に重要で、場合によっては言葉よりもはるかに真相を物語っていることも少なくありません。言葉は我々の意思を意図的に伝達する手段として有効である一方で、身体は私たちの潜在的な部分と深く結び付いているという意味において、最も原始的なメディアであるといえます。

身体メディア研究室では、身体を媒体として「どのようなメッセージが伝達されるか」、またそれが「どのようなメカニズムに基づいているか」という問題を中心に、日常動作から演劇、舞踊に至るまで広く身体を契機とした諸問題について研究を行っています。

春学期：主に身体メディアに関する文献を輪読しながら、身体問題に関する知識を習得しつつ、各自の卒業研究のテーマ設定を行います。

秋学期：各自が設定したテーマについて、実験、調査を進め、卒論執筆を行います。身体メディアに関する調査・実験・分析方法や結果の解釈の仕方を習得するとともに、その文化的背景などについて研究室全体でディスカッションを行います。

身体メディア研究室のキーワード

身体メディア・身体動作・ジェスチャー・マルチモーダルインタラクション・身体文化・舞踊・伝統芸能・身体技法・わざ・デジタルアーカイブ

定例ゼミ

週1回の全体ゼミを実施します。春学期は輪読会（各自担当の文献について発表を行い、当該テーマについてディスカッションを行う）および卒業研究のための予備実験・予備調査の実施。秋学期は各自の研究進捗状況についての報告をしていただきます。

グループワーク

同じテーマのゼミ生同士で勉強会を開いたり、共同で実験を実施したりします。

個人指導

春学期は2週間に1～2回、秋学期は週1～2回（時期によって頻回になる事もあります）。卒業研究についてのミーティングを実施します。同じテーマのゼミ生と共同で実施することもあります。

到達目標

一連の卒業研究にかかる作業を通じて、身体メディアに関する知識・研究技法を身につけるとともに、問題発見、解決能力と人と文化に対する総合的な洞察力を涵養することを目指します。

年間計画

4月	初顔合わせ会 定例ゼミ開始
5月～6月	テーマ検討
7月	予備調査, 予備実験 所信表明 卒業研究テーマの決定 研究計画書の提出
8月	予備調査, 予備実験
9月下旬	中間報告会 ゼミ合宿 本実験開始
10月	データ抽出, 加工, 分析
11月初旬	論文執筆開始
12月初旬	卒論草稿提出
12月中下旬	卒論提出
1月中旬	試問会準備, 練習
1月下旬	試問会

卒業研究テーマ例

2013年度	2012年度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性はブラジャーに何を求めているのか—下着選好基準と身体性— ・ お笑い芸人のフリートークにおけるオープンコミュニケーション構造 ・ 共同ぬりえ作業におけるコミュニケーションの構造 ・ 共同作業におけるマルチモーダルインタラクション—目的指向型課題に成功する秘訣とは— ・ 立ち話における身体距離の時系列変化—親密度の異なる三者間会話において— ・ 対人印象の形成要因—人の印象は何で決まるのか— ・ 手品における認知的方略が行動に及ぼす影響—リハーサルと本番の比較— ・ 曲調再現課題における非言語行動分析—人は音楽をいかにして伝えるか— ・ ラジオにおけるオープンコミュニケーションの構造 ・ お辞儀動作の定量的分析—インタビュアーの振る舞いが挨拶行動に与える影響— ・ ストーリー再生課題におけるマルチモーダルインタラクション—母国語と第二言語の順序効果— ・ 共同模写作業におけるコミュニケーションの生成過程—マルチモーダルな視点から— 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手の身振りが聞き手の表象に与える影響 ・ 集団場面において挙手行動を抑制する要因 ・ 男性化粧によるスポットライト効果と気分変容 ・ 話者の会話行動と感覚時間の関連—話の長さは聞き手の評価に影響するのか— ・ 対話における非言語情報の意識的表出—一人はノウハウを活かせるか— ・ ストーリー再現課題におけるジェスチャー—非現実的世界をどう伝えるか— ・ 音声フィルターの抑制が行動フィルターの生起量へ与える影響 ・ 立ち話におけるF陣形の動的変化—三者間会話の参与構造分析— ・ 男らしさ・女らしさの身体性—性役割に関する価値観との関連— ・ ホラーストーリー再現課題における非言語表出性—人は恐怖をいかにして伝えるか— ・ 共同調理作業における参与行動と親密性—マルチモーダル分析の視点から— ・ 集団討議における葛藤対処方略と自己肯定感

メッセージ

卒業研究は、大学生活の集大成です。ご縁があって文化情報学部、そして阪田研究室に入ってきたのですから、自分にしかできないユニークな研究をしましょう。身体、コミュニケーションに興味のある方は、研究室に相談に来てください。

担当教員

下嶋 篤

研究室HP

[www1.doshisha.ac.jp/
~ashimoji/](http://www1.doshisha.ac.jp/~ashimoji/)



研究室についてここで述べた内容をより詳しく紹介しています

研究室訪問・面接について

適当な時期に、研究室の前に予約表を掲示しますので、それに氏名を記入して予約して下さい。同時に面接を行うので、なぜこの研究室に関心があるか考えておいて下さい。

研究室で取り組んでいる問題

原始のカレンダーや古代の地図が示すように、グラフィック表現は人類の歴史の中で、言語と並ぶ大切な情報表現の手段でした。昨今ではとくに、テレビ番組、新聞記事、雑誌記事、広告記事、パンフレット、WEBページ、SNS記事、説明書、参考書、授業、講演、プレゼンテーションなど、様々なメディアにグラフィック表現があふれています。私たちは、気がつかないうちに、グラフィック表現を使った説明や説得にさらされています。

しかし、こうした活動の中でグラフィック表現がいったいどのような役割を果たしているかについては、世界的にもまだ研究が始まったばかりで、分かっていないことばかりです。言語表現については言語学という立派な学問分野がありますが、グラフィック表現についてはまだ学問分野が確立していません。

研究室の目標

1. 説明や説得において、グラフィック表現がどのような役割を果たしているかを明らかにする。
2. それによって、説明や説得におけるグラフィック表現の効果的な利用方法とともに
3. グラフィック表現が誤った理解や決定を誘導する要因を見つけ出すこと

研究のスケジュール

- 右上の表にあるように、春学期に通りの研究を行い、8月に合宿で成果を発表し最終レポートをまとめます。秋学期には春の経験と反省に基づいて、もう一度研究計画を練り直し、卒業研究として研究を仕上げます。このように2回研究を行うことで、自分の弱点を知り、それを克服して高度に知的な課題を達成する力をつけます。
- ゼミは春・秋学期中、原則として毎週火曜の2限と昼休みの時間に行います。個人ごとに4週間に1回程度、研究の進捗状況を報告します。
- これに加え、担当教員が月曜～金曜の13時～18時の間、授業と会議の時間以外を「営業時間」とし、研究の相談に乗ります。

Q & A：どのようなものがグラフィック表現に入りますか

グラフィック表現とは、おおむね、次のような条件にあてはまるものです。

- ある平面上の、インク、塗料、画素などで構成された図柄で、
- ある事柄に関して、分かりやすく情報を表示する機能をもつもの

典型的な例は、地図、路線図、棒グラフ、折れ線グラフ、勤務表、断面図、幾何学図、組織図などです。分かりやすく情報を伝えるためのイラストや漫

	3月	春学期研究準備期間 (必要に応じて研究相談)	
春学期 一つ目の 研究実施	4月上旬	ゼミ開始	4週に1回 ゼミで進捗 報告
	6月中旬	中間レポート(兼研究計画書)提出	
	7月下旬	ゼミ終了	
	8月上旬	合宿で研究成果発表	
	8月中旬	期末レポート提出	
	9月上・ 中旬	秋学期研究準備期間 (必要に応じて研究相談)	
秋学期 二つ目の 研究実施	9月下旬	ゼミ開始 (各自、研究計画を発表)	4週に1回 ゼミで進捗 報告
	11月下旬	ブレ卒論提出	
	12月中旬	卒論提出	
	1月下旬	ゼミ終了 卒論試問会で発表	

画、説明や広告に使われる写真も入ります。

Q & A : どのような学生に適していますか

次にどれかにあてはまる人。

- 視覚メディアを通じた説明や説得に関心がある。自分でもその技術をつけたいと思っている。
- 研究の実践を通じて論理的思考力を伸ばしたい。
- ちょっとしんどくても、大学の最後の年にしっかりとした研究をして、世の中のためになる知見を論文として残したい。

Q & A : 研究テーマはどのように決まりますか

まず、1対1の話し合いの中で学生の関心のありかを突き止めます。それをベースにして、研究として有意義で、かつ、1年間で完遂できるように絞り込んだ研究テーマを作り上げていきます。すべて対話ベースで進めて行きます。

Q & A : 就職活動と両立できますか

本研究室での「拘束時間」は、学期中の週1回のゼミと、夏休み中一泊二日の合宿だけです。あとは、スケジュール表の下線で示した課題をその時期ごとに達成できるように、自分で時間を配分して使えば、就職活動と十分に両立可能です。そうした時間管理能力も、社会に出る前に身に付けたい重要なスキルです。

論理的思考力とは

情報を比較・分析し、異なる論理的道筋を区別し正確に結論を導く能力。また、自分がたどった論理的道筋を明確に説明したり、他の人の論説や説明に隠れている論理的道筋を見抜いたりする能力。

認知行動科学研究室 (杉尾研究室)

概要:

認知行動科学研究室では、視覚認知の仕組みに基づいた文化的対象の説明をおこなうことを卒業研究の大きな柱としています。特に、視覚的表現物の認知における階層性やクロスモーダル性、図的表現の認知メカニズムの解明に関するトピックから具体的な研究テーマを考えることを求めます。研究室に所属する学生は、認知心理学・認知科学的な研究手法を用いて研究を進めていくことになります。

卒業論文題目の例:

(2017年度)

- ・協同課題を通して形成される対人印象が食行動に及ぼす影響
- ・情動の創造性課題に対する影響の感覚モダリティ依存性
- ・企業ロゴの色と形による心理特性が企業活動の印象評価に及ぼす影響
- ・ヒーローの視覚的特徴と善悪の連合に対する判断基準の個人差
- ・色彩象徴の利用可能性がコロプレス図の読解に与える影響
- ・部屋の内装的特徴と評価者のパーソナリティ特性が印象評価に及ぼす影響
- ・評価者の性格特性および好みがヘアスタイルの印象評価に及ぼす影響
- ・映画ポスターの視覚的特性による親近度が体性感覚の大きさに及ぼす影響
- ・単語に対するアンダーラインの視覚的特性と単語の情動性が再生記憶に及ぼす影響
- ・顔画像に対する自動的処理がパーソナリティ判断に及ぼす影響
- ・情動知能とパーソナリティ特性の個人差がピクトグラムに対する評価に及ぼす影響
- ・パッケージにおける画像とキャッチコピー間での意味の共有が製品の印象に与える影響
- ・香りから喚起される覚醒度が達成動機の評価に及ぼす影響
- ・ワンピースの視覚的特徴が仕事に対する能力と女性らしさの評価に及ぼす影響

(2018年度)

- ・文庫本に対する態度に周辺提示された情報が及ぼす影響
- ・ユニフォームの配色とフォントへの感情価がチーム特性の認知に及ぼす影響
- ・POP広告に対するクロスモーダルな認知に購買態度の情緒性が及ぼす影響
- ・現代アートにおける芸術らしさの認知が作品の好悪判断に及ぼす影響
- ・ファッションと職業名の適合性が対人印象に及ぼす影響の個人差
- ・メニュー表の視覚的特性の顕著性が商品名の再生に与える影響
- ・飲食店への態度に利用場面と看板の視覚特性が及ぼす影響
- ・広告における周辺的情報が購買態度に及ぼす影響
- ・リクルートスーツからの対人認知に対する言語情報の影響
- ・バナー広告に記載された情報の典型性が選好性と態度に与える影響
- ・案内図の視空間的特徴と空間能力の個人差が空間イメージ形成に及ぼす影響
- ・錠剤の色と形の適合性が服用態度に及ぼす影響

配属決定後のスケジュール(予定):

- ・3年次は、主に「ジョイント・リサーチ」において、研究に必要な知識とスキルの修得をおこなう
- ・研究テーマの設定および関連研究の輪読(3年次 11月～2月):グループ単位で議論を進めながら、関連研究の輪読をおこなう
- ・定例ゼミ(4年次春学期):グループ単位で定期的に議論を進め、指導教員に報告する
- ・研究計画書の提出(4年次春学期末):秋学期開講前にデータを取り始めることができるように実施可能な研究計画を立てて同時に準備を進める
- ・ゼミ合宿(4年次 9月上旬予定):コロキアムの発表練習および研究室に所属する学生間での親睦を深める
- ・本実験・調査(4年次 9月～10月)
- ・データ分析および考察、本論文の執筆(～4年次 11月)
- ・卒業論文の提出(4年次 12月下旬)
- ・試問会(4年次 1月末)

認知心理学的な実験をおこなうことは大変です:

認知心理学的な実験・調査研究を進める上で、きちんとした研究計画を立てることは不可欠です。自分の個人的な興味だけで自由にデータを取る形では実験的研究とはなりません。現象の背後にある因果関係を突き止めるためには、実験以外の方法をとることはできませんが、準備や実施は非常に大変です。きちんと時間をかけて準備を進めない限り、実施することはできません。卒業に向けての忙しい時期ではありますが、以下のような方は不向きです:

- ・「大学にはできるだけ来たくない」
- ・「卒業研究以外を優先させたい」
- ・「周りにどう思われても平気」
- ・「とにかく手っ取り早く済ませたい」

こういった学生として成長することを期待します:

この研究室に所属する学生に対しては、自分の狭い範囲での興味だけでなく、積極的にさまざまなことに関心を持ち、スケジュールを立ててあらゆることを早めに進め、グループおよび研究室全体で協力し合う姿勢を持つことを期待します。

質問等がある場合:

質問等がある場合は事前にアポイント(E-mail: tsugio@mail.doshisha.ac.jp)を取って直接研究室(MK506)を訪問するようにしてください。

CHCI Lab.

(Cultural Human-Computer Interaction Laboratory)
卒業研究説明 22/9/2017

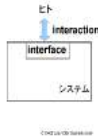
杉本 裕二

同志社大学 文化情報学部 教授
同志社大学大学院 文化情報学研究科 教授

CHCI Lab. 2017 (c) Yoji Y. Sugimoto

Human-computer interaction

- ヒトとコンピュータ内蔵システムとの相互作用、つまりやり取り
- やり取りをする部分をinterfaceといい、この良し悪しが、システムの使い勝手を大きく左右
- 従来は、interfaceの仕様にヒトが合わせていた
- 一ヒトが使いにくいシステムが多く
- interactionがスムーズでないことが問題
- 扱うコンテンツによって適切なinterfaceも異なる



CHCI Lab. 2017 (c) Yoji Y. Sugimoto

CHCI Lab.

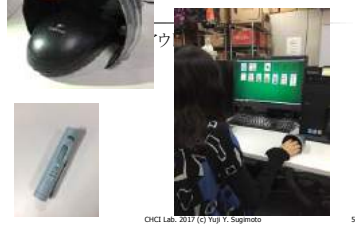
- 文化を電子的に表示・加工・生成等を
- 効率的・効果的にするため
- それぞれの文化に適合した、ヒトが使いやすいinterface装置を研究
- すなわち、interface装置(ハードウェア)の
 - 設計-製作-評価(改造も含む)をする
- ゼミ
 - 文系出身の学生が多いくらい
 - 卒業研究ミーティング:1講時/週
 - 卒業研究中間発表会:2回/学期

CHCI Lab. 2017 (c) Yoji Y. Sugimoto

卒業研究テーマ例 インタフェース装置 タイピングミス防止キーボードの開発



指先用ヒータ付きマウスの開発



Virtual Reality(VR)技術, Augmented Reality(AR)技術 AR技術を用いたパーソナルコンピュータ自作 体験システムの開発



音楽・芸術分野応用 電子ハンドベルの開発

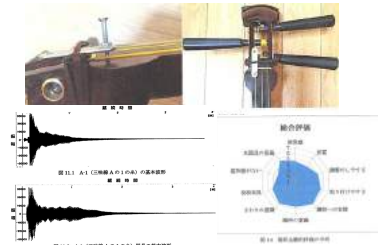


ジェスチャ認識による 電子ドラムの静寂性向上の研究

- クリックしてアウトラインを挿入



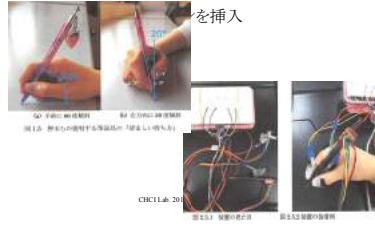
三味線のさわり発生補助器具の研究



クリックして動作装置を挿入



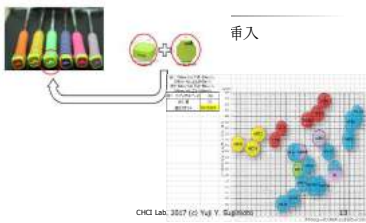
正確な書字を実現するための筆記具把持矯正補助システムの開発



運動分野応用
安定した杖歩行認知装置の開発



バドミントンラケット推奨システムの研究



スノーボード基礎練習支援装置の開発



馬術トレーニング装置の開発



味の調理中判別可能機器の開発

- 測定
 - 糖度
 - 塩分濃度
- 実験料理
 - もやし炒め
 - 中華スープ
 - 回鍋肉
 - 麻婆豆腐



交通分野応用
オートバイ運転時における視認負荷軽減装置の研究



CHCI Lab.での研究を希望する人
CHCI Lab.での研究に興味がある人

- 希望順位にかかわらず
 - 第1希望でなくても、第2希望、第3希望、第4希望や第5希望...でも
- 必ず事前に相談に来てください
- 目的
 - 皆さんが希望する研究と、
 - 当研究室で可能な研究のマッチングをとって、
 - 価値ある卒業研究が楽しくできるようにする
- アポイントメントは、10月9日までE-mail を使ってください
 - To: ysugimot@mail.doshisha.ac.jp
 - Subject欄は必ず interview (1) (半角) と書くこと



比較文化研究室（担当 田口哲也教授）

本研究室では比較文化を軸にして内容的には次の3つの分野の研究を行います。

1) 比較文化

この分野で研究を進めようとする人は田口担当の「比較文化論」を受講していること。

研究例：

- ・ 外国の文化と日本の文化の比較
- ・ 現在の日本文化と過去の日本文化の比較
- ・ ポピュラー・カルチャーとハイ・カルチャーの比較
(ハイ・カルチャーとは？：「クラシックバレエやオペラなど、高度の知識を必要とする文化」)

2) メディア研究

この分野で研究を進めようとする人には田口担当の「人間と文化」を受講していること。

研究例：

- ・ メディアと政治学 例) 検閲、タブー、扇動など
- ・ 複合メディア 例) ゲーム、実験演劇など
- ・ メディアとしての大衆文化 例) 映画、ポップ音楽、演劇、ファッション、写真、ポップアートなど

3) 現代政治学研究

この分野で研究を進めようとする人は「人間と文化」と「比較文化論」を受講していること。

研究例：

- ・ 二十世紀イギリス政治
- ・ アメリカにおける人種関係論
- ・ 北アイルランド問題

過去のゼミ生の卒論のテーマ（一部）

- ・ Otakuの転換点ーオタク文化の現状とその未来ー
- ・ 1960年代アメリカ対抗文化研究ービート、ヒッピー、ロッカーー
- ・ メディア報道の定量評価ー報道が人間に与える影響とはー
- ・ デンマークの公共空間事例に学ぶ21世紀の福祉デザイン
- ・ グラフィティの路上文化としての可能性ー許容される<落書き>とはー
- ・ 対露観の変遷ーハルビンとステレオタイプを通じてー
- ・ 振袖における伝統と革新
- ・ 女性シンガーアイドルの自己主張とプロモーション
- ・ アメリカ大統領選挙における選挙戦略の変化
- ・ 女性ファッションの変遷ーモテるファッションから「モテファッション」へ
- ・ 死刑制度を考える





授業計画とゼミ行事一覧

時期	授業計画	行事
第1クール (5月中旬まで)	毎週、調査方法、資料収集やデータ検索の方法、文献室の利用方法、論文の書き方など、実践的なりサーチ方法や研究のまとめ方などを学習する。	ゼミ生顔合わせ
第2クール (6月下旬まで)	文献調査を始める。100冊の文献一覧を作成する。	フィールドワーク
第3クール (7月下旬まで)	プチ・プレゼンを行いながら研究テーマを決定する。研究計画書を作成・提出。	春学期打ち上げ
第4クール (10月初旬まで)	調査表の作成・配布・収集、実験、計測、インタビューなどを行い、データ収集。	進捗状況報告会
第5クール (11月中旬まで)	研究発表で合格が出た者から章立てを決定し、概要と序論、第1章を完成。	人数限定懇親会
第6クール (卒論提出まで)	11月末までに第1稿を完成させ、その後修正を経て提出へ。	卒論提出打ち上げ



各自の興味・関心を

まじりに研究をやる



計量社会学研究室

(担当教員：鄭 躍軍)

1. 研究室の概要

計量社会学研究室では、人間社会の仕組み、人びとの意識・行動様式、社会ネットワークの構造などをデータにより捉え、様々な視点から関心ある社会現象の有様を明らかにするための営みを行っています。人間行動データの計測・収集・解析等の理論的研究もあれば、データを用いて、価値観、環境問題、組織文化などを分析する応用的研究もあります。

2. 主な研究スコープ

①計量社会学方法論の研究

調査データの組織・収集・解析などの方法を開発したり、その適応性を検証したりしています。例えば、サンプリング、調査モード、ビッグデータの解析に関連する研究テーマが考えられます。

②文化・生活に関する意識の分析

文化・社会生活に関するデータを収集し、それにより諸々の現象間の「関連性」・「因果関係」・「構造の有様」を解明しています。例えば、流行、商品の売れ筋、消費者の選好性、ネットワークのダイナミズムなどを分析する研究テーマが考えられます。

③環境問題の社会科学研究

環境問題は人間活動に起因するものという視点から、人々の生活様式及び行動方式の特徴を意識の視点から解明しています。例えば、環境配慮行動、環境教育、環境評価などに関する研究テーマが考えられます。

④国際比較調査データの分析

東アジア・太平洋地域を中心に、文化・民族・言語等の多様性に富む集団を調べる方法を開発し、データにより社会的変容と文化传播の実態を解明したりしています。特に、国民性や価値観などの特徴を分析し、文化、政治、経済的背景による影響を解析しています。

3. 過去の研究テーマ例

2018年度

- ・ 社会人のボランティアへの関心に関する実態分析
- ・ 日本酒飲用者の嗜好特徴に関する分析
- ・ 大学生におけるお酒の消費行動の分析
- ・ 幼少期・思春期における家族との過ごし方と現在の家族意識の関連分析
- ・ 母親の子どもや子育てに対する意識調査分析
- ・ 実店舗購入における電子決済利用に関する意識分析
- ・ 大学生における「ひとり消費行動」に関する意識調査分析
- ・ クルーズ旅行への印象評価ー乗船者の視点からー
- ・ インターネット上の口コミが映画作品選定に与える影響

- ・化粧落としに対するクチコミの評価特徴分析ークレンジングオイルに着目してー

2017年度

- ・大学生の SNS 利用に伴うストレスの実態調査分析
- ・プロ野球人気球団ファンの特徴を探るー観客動員数増加に向けてー
- ・住民の声からみる地域の住みやすさに関する意識調査分析
- ・都市間移動における幹線交通手段の選択要因分析～非業務目的に着目して～
- ・教職課程履修者の職業選択における影響要因分析
- ・シェア居住における社会的ネットワークの構造分析
- ・口コミに基づく一般診療所サービスに関する評価傾向分析
- ・大学生のひとり行動に対する意識調査分析
- ・飼い犬の殺処分に関わる要因
- ・若手社員の理想的上司に対する意識調査分析
- ・部活動の経験が与えるライフスキル獲得への影響
- ・大学生の宿泊観光旅行の実態と志向
- ・大学生のストレス耐性の差異要因の調査分析
- ・日韓大学生の進路及び就職活動に対する意識の比較調査

4. 年間スケジュール

- ・ 4月上旬：ゼミ開始（進捗状況発表＋データ解析輪読会）
- ・ 6月初旬：卒業研究課題決定
- ・ 6月下旬：予備研究開始
- ・ 7月下旬：研究計画書の提出
- ・ 9月上旬～11月中旬：卒業研究の実際（9月に中間発表会）
- ・ 9月下旬：ゼミ再開（研究進捗の報告を中心に）
- ・ 11月下旬：卒業論文初稿提出
- ・ 12月下旬：卒業論文提出
- ・ 1月下旬：卒業論文審査発表

5. 注意点

- ☞ チャレンジ精神をもち、「データを中心に」という研究に取り組む姿勢を重視します。
- ☞ データの収集・分析の基礎知識及び技能をもつことを前提とします。
- ☞ 研究テーマなどについて事前に必ず担当教員と相談の上、希望を出してください。

※研究内容の詳細について下記のページをご参考ください。

研究室 HP：<http://www1.doshisha.ac.jp/~yzheng/>

教員特集ページ：<https://www.cis.doshisha.ac.jp/staff/zheng/>

国際比較調査 HP：<http://cns-ceas.doshisha.ac.jp/>

メールアドレス：yzheng@mail.doshisha.ac.jp